

こんな

すてきな人に

会ってききました

井林 靖雄 さん

親にとっても楽しい紙芝居

「赤ちゃんが泣いちゃった」「今度は赤ちゃんが笑ったよ!」と子どもたちも紙芝居を見ながら楽しく話しています。やさしく表情豊かに子ども達に語りかけるおじさんがいます。港区南青山にある特定非営利活動法人あい・ぽーとステーションの子育てひろば「あい・ぽーと」で、1か月に一度開催される「井林おじさんの紙芝居劇場」。「紙芝居を見ていると親にとってもノスタルジックな気持ちになり、子どもの頃が懐かしくなります」と常連のお母さんからも好評です。「幼児向けの紙芝居は多いけれど、乳児向けの紙芝居が少ないので見つけるのが大変」だと語る紙芝居おじさんの井林靖雄さんにスポットをあててみます。

潜在的な福祉への想い

最近のお母さんは、「自分の子育てはうまくいっていないのかもしれない」とは言うものの、利用されている子どもたちと接する姿からは全くそのようなことは感じられず、紙芝居劇場が終わった後も赤ちゃんたちと楽しそうに遊ぶ様子からは、ご自身の子育てもしつかりできたのでは、と感じます。

井林さんは以前、港区内でタイヤ販売を営み、地域密着型で着実な事業をされていた中から中央官庁からも信頼を得て、「たまたま官庁が近いものですかから役所の関係はほとんど全部出入りして大臣車もやっています」というように仕事一辺倒でやってこられました。激務がたたったのか、58歳の時に腰を悪くされたのを機に事業を閉じ、跡地を賃貸するこ

とで生計を立てていました。認知症の実母の介護に約2年間奥様と携われ、看取られた後、次女から「この先も仕事を続けてみては」と強く促されて乳児院の清掃や世話をするようになりました。その乳児院には今でも縁があり、毎週土曜の午前中にはルーティンとしてボランティア活動をされています。また、12年間民生委員としてご活躍された奥様に引かれるように、ご自身も民生委員の活動をされました。

案外子どもが好き!?

「自分の子育ては全然。昔からやってくれなかった」と奥様に言われている井林さんですが、民生委員活動で港区の子育て支援部会に出席した時、あい・ぽーとステーションの大日向雅美代表理事の話を聞いて、本格的に子育て支援に関わってみようと思ったそうです。「どちらかというと大日向先生のファンです。それがウエートのには随分大きいと思います」とのことです。あい・ぽーとステーションが運営する子育て・家族支援者の第1期に受講できるように区役所など行政に問い合わせをしていたのですが、たまたま問い合わせ先で時間がかかってしまい募集の締め切りが過ぎてしまいました。「あの時は本当にびびくりしました。行政という同じ組織の中でも保健・福祉関係の情報が全く共有されていませんでした。住民としてそれはいかなるものか。ちよっと自分でもやってみなきやまずい」と自問自答して、本格的に取り組む一因にもなりました。

実際に一時保育に携わる中から

あい・ぽーとの子育て・家族支援者として一時保育時にご自宅を使用される際には、同居する長男、



天気の良い日は庭に出て開始することもあります

何度も利用されるいわゆる「常連」の保護者や子どもに接する際には、「親しき仲にも礼儀あり」ということで、しっかりと業務とプライベートの線を引くように細心の注意を払います。また、「新生児とか女の子には、

長女からも協力があり、子どもたちも「大きなお兄ちゃん、大きなお姉ちゃんがいる」と楽しんでいきます。また、奥様も外孫に接するように関わってくださっています。

現在、5家族計7人の子どもの一時保育も担当されています。足の不自由なおじいちゃんがいる家で保育をしたり、ピアノや水泳などの習い事の送迎をしたり、幼稚園や小学校の保護者会時に一時的に預かったり、さまざまな場面で息つく間もありません。

そこは、あい・ぽーとの子育て・家族支援者の3級・2級の講習時の実習などで、講師の方々からしっかりと教わったことが生きています。「おむつであろうが何であろうかどうということはないですよ。ただ最初はやっぱり大変ですよ。一歩踏み出すまでは」。

男性の支援者だったらだめ」ということを利用者から言われたこともあったようですが、「本当にもうにつきもさつちもいかなく困ったお母さんというのはそんなことないですよ」とあまり意に介さないようです。

ある時、9か月の女の子を持つお母さんが高熱を出して動けなくなり、「それこそ女だとか男だとか言っている場合ではない」という状況でお手伝いされたことがあったそうです。その時のお母さんにはとても感謝され、今では「常連」の何人かのうちの1人になっていくそうです。あい・ぽーとの副施設長の池田由記さんも「井林さんはとても誠実な方で、紙芝居だけでなく一時保育も安心して任せています」と信頼を寄せています。

地域に還元できるものがあれば

今までずっと都内で暮らしてきた井林さんは、港区と明治学院大学の協働事業「チャレンジコミュニティ大学」の第1期生でもあります。「出身校ということでスムーズに講義に入っていくことができました。福祉、ボランティア、奉仕の精神というものは持ち続けていました」とのことです。

今後は、あい・ぽーとの子育て・家族支援者としてだけでなく、マンシヨンの理事会や地域の自治会では役員として、また、公園ボランティアといったものにも積極的に取り組んでいきたいと話します。「歩いているとバギーを押したお母さんから、こんにちはと声をかけられるのがやっぱり一番うれしいです」人とのつながりが希薄になりがちな昨今ですが、人との縁やかかわりを大切にして自分の住んでいる地域からメッセージを発信できればうれしいと話します。

ます。

福祉医療機構でも新たな取り組みとして、「団塊の世代等による地域のコミュニティの再生に関する事業」を積極的に支援していきます。今後も、井林さんのような



室内でも広いスペースがあり、多目的に使用できます

【プロフィール】

いばやし やすお (68)

- ・子育てひろば あい・ぽーとに所属
- ・子育て・家族支援者として、施設内や保護者不在の家庭での一時保育等に携わる
- ・奥様、長男、長女と同居。今は離れて暮らす次女が福祉に携わるきっかけをつくる
- ・ご勤務の際は、4～5時間ぐらいい食事もとらないスタイル。「スタートして終わるまで、何でも大丈夫という状態でないと子どもたちや親御さんに迷惑をかけますから。」とのこと。

※協力/ 特定非営利活動法人
あい・ぽーとステーション
(代表理事: 大日向雅美、新澤誠治)
〒107-0062 東京都港区南青山2-25-1
TEL: 03-5786-3250
FAX: 03-5786-3256
Email: info@ai-port.jp
URL: http://www.ai-port.jp